

米をめぐる関係資料

令和 5 年 7 月

農林水産省

目次

【① 我が国における米の状況】

○米の全体需給の動向（昭和35年～）	4
○米の需要量及び販売価格の動向	5
○米の用途別・年産別面積の推移	6
○令和4年産の水田における作付状況	7
○米の流通経路別流通量の状況	8
○米の流通の状況	9
○家庭における1世帯当たりの 米、パン、めん類の購入量の推移	10
○家庭における1世帯当たりの支出金額の推移	11
○米の消費における家庭内及び 中食・外食の占める割合	12
○米の消費動向	13～15
○主食用米の販売動向	16
○（参考）茶わん1杯のお米の値段	17
○販売目的で作付けした水稻の 作付面積規模別農業経営体数	18
○米の作付規模別60kg当たり生産費	19
○水田の利用状況の推移	20
○政府備蓄米の運営について	21
○日本における穀物等の備蓄	22・23
○政府備蓄米の無償交付	24
○東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄	25
○福島県における県産米の安全・安心確保への取組	26
○令和5年産米の作付制限等の対象地域	27

【② 食料・農業・農村基本計画】

○食料・農業・農村基本計画：本文	29
○食料・農業・農村基本計画：令和12年度における 食料消費の見通し及び生産努力目標	30

【③ 需要に応じた生産の推進に向けた施策等】

○令和5年産水田活用予算の全体像	32
○畑地化促進事業	33
○農業経営基盤強化準備金制度の対象事業について	35
○畑作物産地形成促進事業	36
○コメ新市場開拓等促進事業	37
○水田活用の直接支払交付金等	39
○水田農業の高収益化の推進＜一部公共＞	40
○水田活用の直接支払交付金の交付対象水田	41・42
○水田農業の高収益化の推進	42
○飼料用米・米粉用米の支援に係る課題と対応方向	43
○種子の増産スケジュール（飼料用米の多収品種）	44
○令和5年産以降の飼料用米への支援について	45
○種子の増産スケジュール（米粉用米の専用品種）	46
○令和5年産以降の米粉用米への支援について	47
○令和5年産における水田活用直接支払交付金及び 関連対策の見直し	48
○各都道府県において栽培可能な多収品種	49
○米粉パン・米粉麺に適した米粉専用品種	50・51
○飼料用米の申請項目の変更について	52
○産地交付金の運用について	53
○小麦・大豆の国産化の推進	54
○麦・大豆収益・生産性向上プロジェクト成果	56・57
○令和5年産米の需要に応じた生産・販売の推進状況	58
○主食用米の需給安定の考え方について	59
○収入保険制度の実施	60
○米・畑作物の収入減少影響緩和交付金	61～63
○米穀周年供給・需要拡大支援事業	64
○コロナ影響緩和特別対策	65
○令和4・5年度の保管料支援のイメージ	66
○農業再生協議会について	68
○全国的な推進組織について	69
○需要に応じた販売について	70

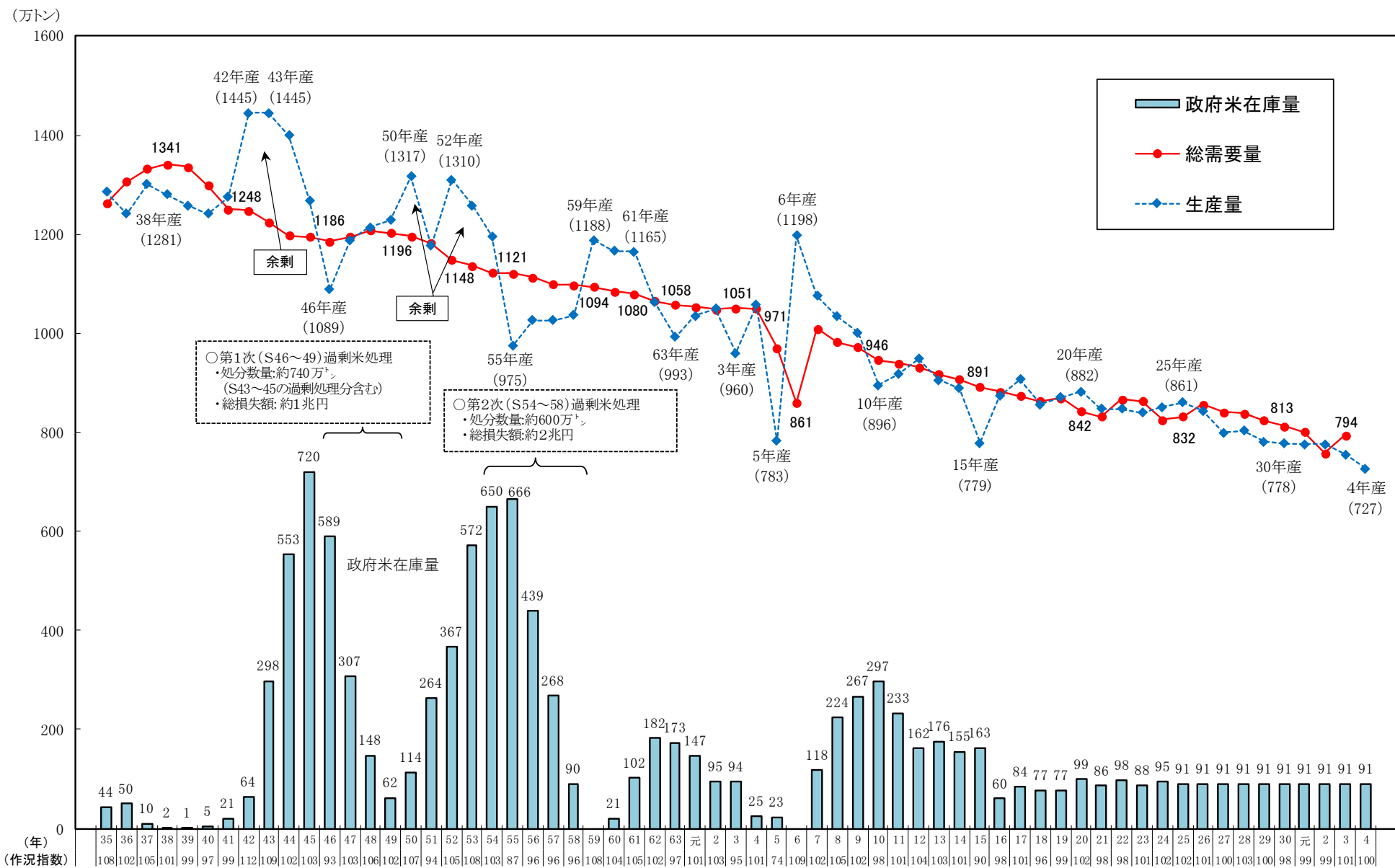
目 次

○中食・外食向けの販売量の状況について	71	72
○中食・外食向けの需要に応じた生産・販売辞令	73	
○「米と健康」に着目した情報発信について	74	
○HP及びSNSを活用した米の消費拡大の情報発信	75	
○YouTube を活用した米の消費拡大の情報発信	76	
○政府広報での情報発信について	77	
○エシカル消費に着目した米の消費拡大の取組	78	
○産地と中食・外食事業者等の米マッチングフェア	79	
○稲作農業の体質強化総合対策事業	80	
○生産コスト低減に向けた具体的な取組	81	82
○水稻の多収品種	83	
○スマート農業産地モデル実証	84	
○農産物検査の見直しについて	86	87
○スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム	88	
○生産から消費に至るまでの情報の連携と活用	89	
○スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム会員一覧	90	
○米（玄米・精米）の物流合理化について	91	
【④ 新規需要米の取組状況】		
○多収品種について	93	
○飼料用米の取組状況	94	
○令和4年産飼料用米の出荷方式、品種別面積	95	
○飼料用米の供給状況	96	
○配合飼料メーカーの立地状況と 飼料用米の集荷・流通体制	97	
○（参考）飼料用米の流通経費について	98	
○米粉用米の状況	99	
○米粉によるグルテンフリー食品市場の 取り込みに向けて	100	
○米粉の利用拡大支援対策事業	101	102
○日本酒の需要動向と原料米の使用量について	103	

○酒造好適米の需要に応じた生産について	104
【⑤ コメの輸出・輸入】	
○コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況	106
○商業用の米の輸出数量及び輸出金額の推移	107
○パックご飯・米菓・日本酒の輸出実績の推移	108
○農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略について	109
○輸出拡大実行戦略品目別輸出目標	110
○農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の 一部を改正する法律の概要	111
○全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会の概要	112
○品目団体による輸出促進のための取組について	113
○コメ海外市場拡大戦略プロジェクトについて	114
○中国向けコメ輸出の状況	115
○海外における実需者の事例	116
○経営規模・生産コスト等の内外比較	117
○日米の水稻栽培法の主な違い	118
○コメの内外価格差	119
○コメの輸入制度	120
○MA米の運用に関する政府の方針・見解	121
○国家貿易によるコメの輸入の仕組み	122
○MA米の販売状況	123
○コメの国家貿易（MA米等）の運用に伴う財政負担	124
○MA米をめぐる国際関係	125
○総合的なTPP等関連政策大綱	126
○CPTPP英国加入 対日関税に関する 日英間の合意内容	128
○日EU・EPA交渉結果	129
○日米貿易協定交渉結果	130
○世界のコメ需給の現状	131
○コメ輸出国の動向	132

① 我が国における米の状況

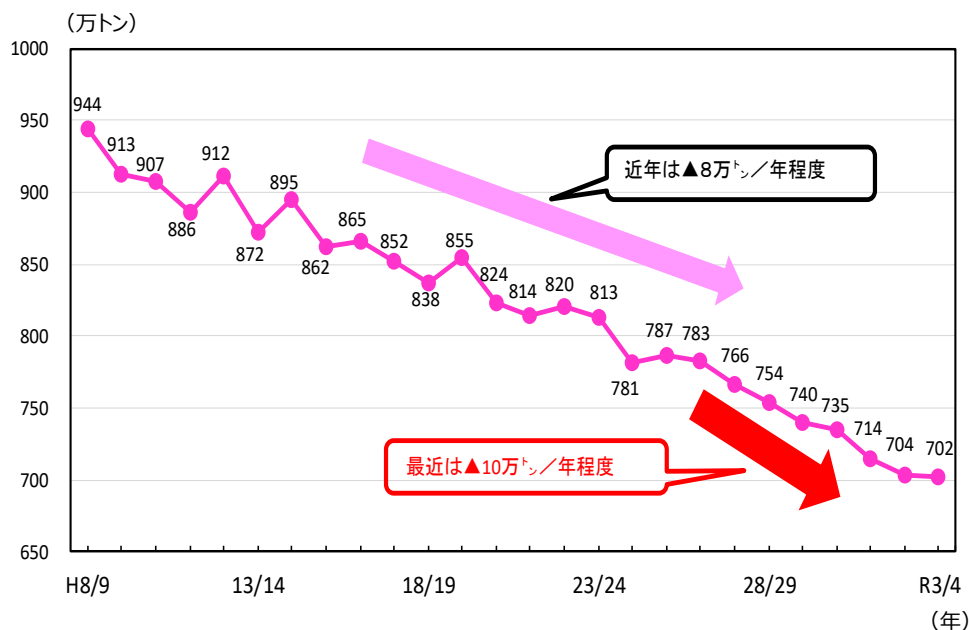
米の全体需給の動向(昭和35年～)



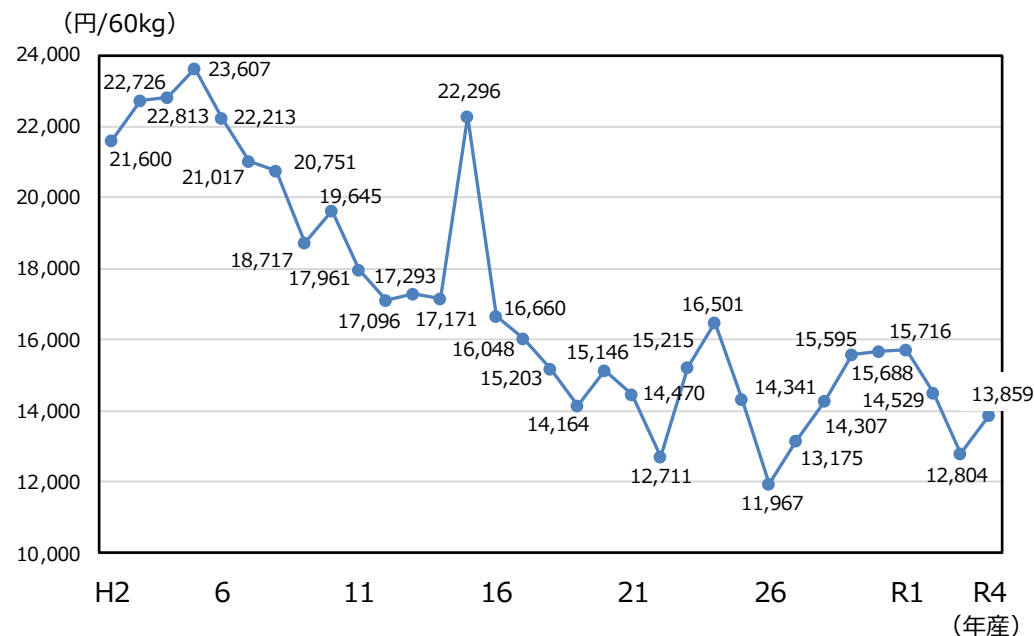
米の需要量及び販売価格の動向

- 主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にある。最近では人口減少等を背景に年10万トン程度に減少幅が拡大。
- 米の販売価格は長期的に低下傾向で推移。近年は堅調に推移していたが、令和2年産米、令和3年産米の平均は、前年を下回って推移。

【主食用米の需要量の推移】



【米の販売価格の推移】



資料：(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：平成2～17年産までは(財) 全国米穀取引・価格形成センター入札結果を元に作成。
注2：平成18年産以降は出回り～翌年10月まで(令和4年産は出回り～5年6月までの速報値)の相対取引価格の平均値。
注3：センター価格は、銘柄ごとの落札数量で加重平均した価格であり、相対取引価格は、銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

米の用途別・年産別面積の推移

(単位: 万ha)

用途 年産			備蓄米	加工用米	新規 需要米	飼料用	WCS 〔 稲発酵 粗飼料稲 〕	米粉用	新市場 開拓用 (輸出用米等)	酒造用	その他
	主食用米	生産量 (万トン)									
H20	159.6	866	H22年産 までは、 主食用米 として生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	—	0.2
H21	159.2	831		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	—	0.1
H22	158.0	824		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	—	0.1
H23	152.6	813	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	—	0.1
H24	152.4	821	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	—	0.1
H25	152.2	818	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	—	0.1
H26	147.4	788	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	744	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	750	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	731	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	733	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	—	0.0
R元	137.9	726	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	—	0.0
R2	136.6	723	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	—	0.0
R3	130.3	701	3.6	4.8	17.5	11.6	4.4	0.8	0.7	—	0.0
R4	125.1	670	3.6	5.0	20.8	14.2	4.8	0.8	0.7	—	0.0

注1 主食用米:統計部公表値。
備蓄米:地域農業再生協議会が把握した面積。加工用米及び新規需要米:取組計画認定面積。
注2 新規需要米の「酒造用」については、「需要に応じた生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。
注3 ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳は合わない場合がある。

令和4年産の水田における作付状況（令和4年9月15日時点）

- ・ 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（130.3万ha）から5.2万ha減少（▲4.0%）し、125.1万haとなった。
- ・ また、戦略作物等については、加工用米、飼料用米、WCS用稲、麦、大豆で前年より増加した。

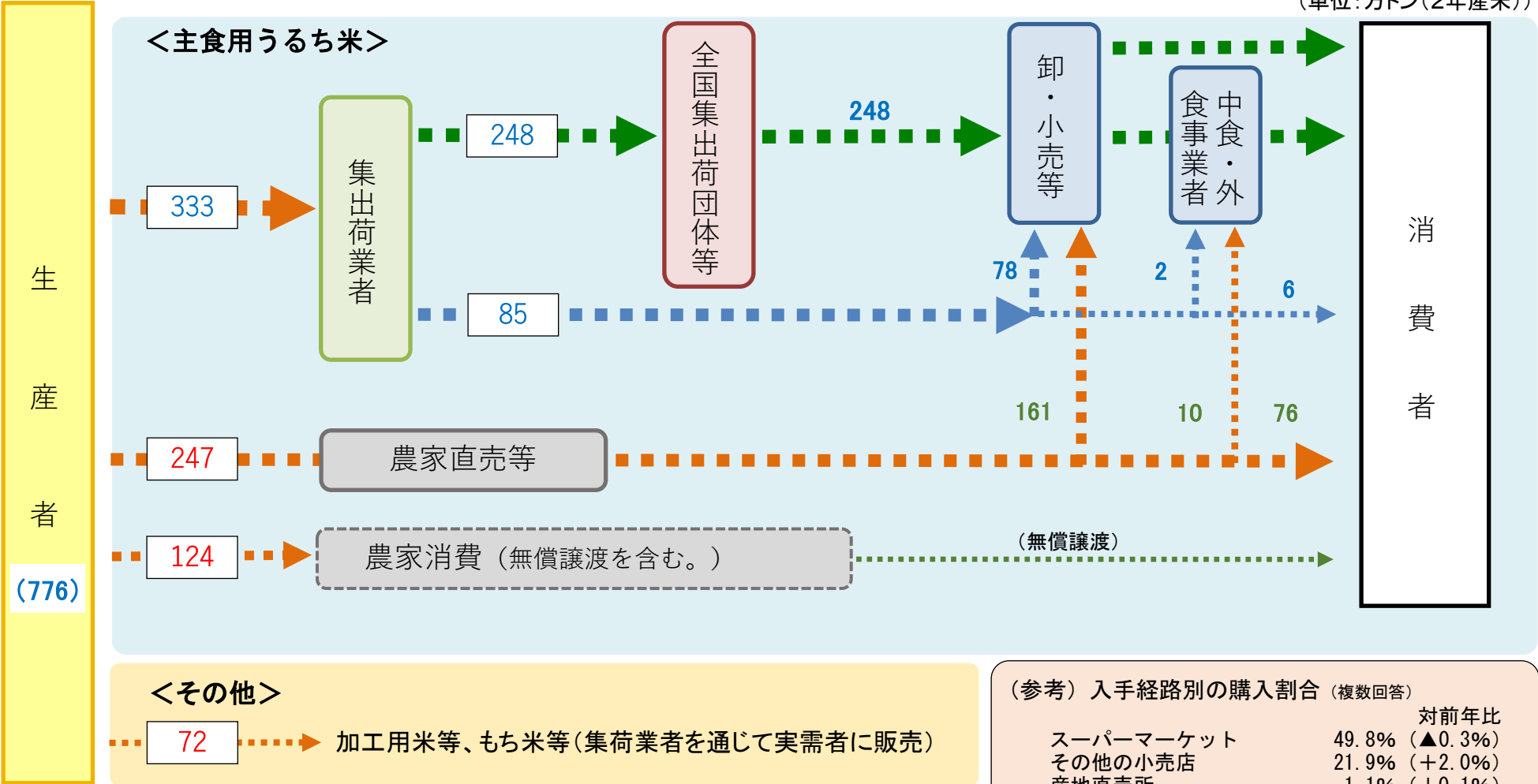
【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

	主食用米	戦略作物等									(万ha)
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	その他	戦略作物等 合計面積	備蓄米
			飼料用米	WCS 〔 稲発酵 粗飼料稲 〕	米粉用米	新市場 開拓用米 （輸出用米等）					
H28年産	138.1	5.1	9.1	4.1	0.3	0.1	9.9	8.9	10.2	47.7	4.0
H29年産	137.0	5.2	9.2	4.3	0.5	0.1	9.8	9.0	10.2	48.3	3.5
H30年産	138.6	5.1	8.0	4.3	0.5	0.4	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R元年産	137.9	4.7	7.3	4.2	0.5	0.4	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R2年産	136.6	4.5	7.1	4.3	0.6	0.6	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R3年産	130.3	4.8	11.6	4.4	0.8	0.7	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R4年産	125.1	5.0	14.2	4.8	0.8	0.7	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。
注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。
注3：麦、大豆、その他（飼料作物、そば、なたね）は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

米の流通経路別流通量の状況

(単位: 万トン(2年産米))



資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注1：集出荷業者には、全集連系を含む（JA等への出荷量333万トンのうち22万トンが全集連系）。

注2：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。

注3：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

(参考) 入手経路別の購入割合 (複数回答)

	対前年比
スーパーマーケット	49.8% (▲0.3%)
その他の小売店	21.9% (+2.0%)
産地直売所	1.1% (+0.1%)
インターネット	9.7% (+1.6%)
生産者から直接購入	5.0% (▲0.9%)
無償譲渡	15.2% (▲2.6%)

※ 米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出 (令和2年4月から令和3年3月の年平均)

米の流通の状況（平成16～令和2年産米）

【生産段階】														(単位:万トン)	
年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗		
H 16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%	
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%	
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%	
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%	
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%	
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%	
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%	
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%	
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%	
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%	
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%	
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%	
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%	
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%	
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%	
R 元	776	100.0%	577	74.3%	129	16.6%	70	9.1%	27	3.4%	28	3.7%	16	2.0%	
2	776	100.0%	580	74.7%	124	16.0%	72	9.3%	28	3.5%	29	3.8%	16	2.0%	

【出荷・販売段階】															(単位:万トン)			
年産	出荷・販売		農協								全集連系業者						生産者	
			販売委託				直販				販売委託		直販		直接販売等			
H 16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%		
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%		
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%		
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%		
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%		
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%		
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%		
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%		
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%		
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%		
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%		
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%		
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%		
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%		
30	576	74.0%	298	38.4%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%		
R 元	577	74.3%	308	39.7%	231	29.7%	77	10.0%	21	2.7%	6	0.8%	14	1.9%	247	31.9%		
2	580	74.7%	312	40.1%	241	31.1%	70	9.1%	22	2.8%	6	0.8%	15	1.9%	247	31.8%		

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注：1）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10a以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。
2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。
3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。